



令和 8 年 9 月 29 日

「救える命を、救うために 心肺蘇生法を全国に広めたい」 広島大学救急集中治療医学講座がクラウドファンディングに挑戦！

広島大学大学院医系科学研究科 救急集中治療医学講座は、令和 8（2026）年 10 月 1 日（木）より、クラウドファンディングサイト「READYFOR」にて、心肺蘇生法を全国に広めるための寄付募集「救える命を、救うために 心肺蘇生法を全国に広めたい」を開始します。

目の前で人が倒れたとき、誰もがためらわずに胸骨圧迫を始められる社会を目指し、学生とともに進める「KASUMI シンパイソセイ PROJECT」の活動を全国へ広げるための挑戦です。

本プロジェクトは広島大学の公式クラウドファンディングとして実施し、いただいたご寄付は広島大学への寄附として受け入れ、寄付金控除の対象となります。

【背景】救急車が到着するまでの約 10 分間で、救命率は大きく変わる

心臓が突然止まったとき、心肺蘇生や除細動の開始が 1 分遅れるごとに、救命の可能性はおよそ 7～10% ずつ低下するといわれています。119 番通報から救急車が現場に到着するまでの時間は、全国平均でおよそ 10 分。救急隊や救急医が駆けつけるまでのこの数分間に、その場に居合わせた人が胸骨圧迫を始められるかどうか、いのちの明暗を分けます。

総務省消防庁「令和 7 年版 救急・救助の現況」によると、令和 6（2024）年中に一般市民が目撃した心原性心肺機能停止の傷病者は 27,769 人。このうち一般市民が心肺蘇生を行ったのは 60.2% にとどまります。心肺蘇生が「行われなかった場合」の 1 か月後社会復帰率が 3.7% であるのに対し、「行われた場合」は 10.4% と約 2.8 倍に上昇し、さらに一般市民が AED で除細動を実施した場合には 44.4% にまで高まります。

【課題】「知っている」のに「動けない」——講習会に来ない人へ、どう届けるか

心肺蘇生法は特別な技術ではなく、誰もが学べて、誰もが実践できるスキルです。それでも「方法を知らない」「やったことがない」「自信がない」という理由で、目の前で人が倒れていても行動に移せない人は少なくありません。

心肺蘇生の講習会は各地で開かれていますが、足を運ぶのはもともと関心のある人がほとんどです。本当に届けたいのは「心肺蘇生に興味がない人」「自分には関係ないと思っている人」——街で誰かが倒れたとき、そばにいるのは医療従事者ではない場合の方が多いからです。

【取り組み】学生とともに心肺蘇生法を全国へ広める「KASUMI シンパイソセイ PROJECT」

そこで広島大学 救急集中治療医学は、医学監修・後援として、広島大学 霞キャンパスの学生（BLS サークル「HALS」・ダンスサークル「DP VOLCA」）約 65 人とともに、心肺蘇生法を学びきっかけをつくり、正しい手技を身につけてもらうための「KASUMI シンパイソセイ PROJECT」を進めています。救急医と学生と一緒に、胸骨圧迫や AED の使い方を実際に体験できるハンズオンを行うとともに、心肺蘇生法を身近に感じてもらうための発信を続けています。

きっかけは、令和 7（2025）年 11 月の広島大学の学園祭「霞祭」でした。アーティストの KAYLLY さんが手掛けた楽曲『心肺蘇生法』に合わせて学生が踊ったステージの動画が TikTok で 100 万回以上再生され（関連動画を含めると累計約 1,000 万回）、「この曲を思い出して胸骨圧迫できそう」「もう一度復習しようと思った」といった声が全国から届きました。

楽曲『心肺蘇生法』は、胸骨圧迫に必要なテンポ（1 分間に 100～120 回）に合わせて制作されています。歌詞には「強く・速く・絶え間なく」「AED を持ってきて」といった心肺蘇生の要点が織り込まれ、ハンズオンでは救急医と学生が正しい手技を指導します。エンターテインメントとしての楽しさと、医療コンテンツとしての正確さ・信頼性を両立できることが、大学が主体となる最大の強みです。

【クラウドファンディング概要】

プロジェクト名：救える命を、救うために 心肺蘇生法を全国に広めたい

実施主体：広島大学大学院 医系科学研究科 救急集中治療医学

募集期間：令和 8（2026）年 10 月 1 日（木）～同年 11 月 27 日（金）

目標金額：300 万円

方式：All or Nothing（目標金額 300 万円に達しない場合は不成立）

寄付の種類：寄付金控除型

プロジェクトページ：

<https://readyfor.jp/projects/kasumi-cpr>

プロジェクト実行責任者：志馬 伸朗（広島大学 救急集中治療医学 教授）

統括・事務局：三谷 雄己（広島大学大学院 医系科学研究科 救急集中治療医学／医療政策室 放射線災害医療総合支援センター 特任学術研究員／広島大学発ベンチャー株式会社からだ企画 代表取締役 CEO）

学生プロジェクトリーダー：渡邊 晃子（広島大学医学部保健学科看護学専攻 3 年／BLS サークル「HALS」部長）

参加団体：広島大学 BLS サークル「HALS」／ダンスサークル「DP VOLCA」

楽曲：『心肺蘇生法』（KAYLLY）

プロジェクト実施完了日：令和 9（2027）年 11 月 30 日

【ご寄付の使途】

① 出張レクチャーで、心肺蘇生法を広島から全国へ

学校・地域・企業・病院・イベントに救急医と学生のチームが出向き、胸骨圧迫や AED の使い方を実際に体験できるハンズオンを中心とした出張レクチャーを行います。「心肺蘇生は誰にでもできる」という実感を、一人でも多くの方に届けます。

② 心肺蘇生法を学べる映像教材の制作

楽曲『心肺蘇生法』を活用し、胸骨圧迫のテンポや要点を分かりやすく学べる映

像教材を制作し、YouTube で公開します。

学校や地域、イベントなどでも活用できる“心肺蘇生の教材”として全国への普及を目指します。

③ プロジェクトを続けられる仕組みをつくる

一過性の話題で終わらせないために、公式サイト の拡充や教材の整備を進め、学生メンバーが代替わりしても続いていくプロジェクトに育てます。

【税制上の優遇措置】

本学へのご寄附は、確定申告により所得税の寄附金控除および個人住民税の寄附金税額控除（指定団体にお住まいの方）の対象となります。法人からのご寄附は全額を損金算入できます。

※詳細 <https://www.hiroshima-u.ac.jp/iagcc/kifu/tax>

【お問い合わせ先】

広島大学 救急集中治療医学／医療政策室 放射線災害医療総合 支援センター 特任学術研究員 三谷 雄己（みたに ゆうき） E-mail：yukimitani@karadakikaku.com TEL ：080-1649-1745
--

HIRODAIKYU



／ 広島大学救急集中治療医学講座がクラウドファンディングに挑戦！／

救える命を、救うために 心肺蘇生法を全国に広めたい

～普及・啓発プロジェクトの推進にご支援を～

目標
金額

300万円

募集
期間

2026年10月1日(木)から
11月27日(金)まで

身近な人が突然、心臓が止まった時あなたならどうしますか？

心臓が突然止まったとき、救急隊が駆けつける前のその瞬間に、その場に居合わせた人が胸骨圧迫を始められるかどうかで、いのちが助かる確率は大きく変わります。心肺蘇生法は特別な技術ではありません。誰もが学べて、誰もが実践できる、いのちを守るためのスキルです。一方で「方法を知らない」「自信がない」という理由で、目の前で人が倒れていても行動に移せない人は未だに多い状況です。

いのちを守るための心肺蘇生法に、まずは関心を持っていただきたい...そんな想いから、私たちは学生たちとともに、講習会や体験型のイベント、SNSでの発信などを通じて、心肺蘇生法を全国へ広めるためのプロジェクトに挑戦を始めます。本プロジェクトをきっかけにより多くの人々が、心肺蘇生法を実践できる社会を目指してまいります。活動の趣旨にご理解をいただき、ご寄付を賜われますと幸いです。

私たち広島大学救急集中治療医学(広大救急)は、高度救命救急センターを拠点に日々最前線で「いのち」と向き合っています。

